

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行「第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修「第2章 聖体の聖なる秘儀」を解説します。

私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

第2章 聖体の聖なる秘儀

典礼憲章

①

～第二バチカン公会議公文書より～

前回の「信者のミサへの参加」を踏まえて、ミサが十分な司牧的效果をもたらすよう、聖なる公会議は、信徒たちが集まり献げられるミサ、特に主日と守るべき祝日のミサに心を留めて、次のことがらを定めます。

ミサの式次第：ミサの各部分の「もともとの重要性」と、「それぞれの関連」をより明らかにして、信者たちがより簡単に敬虔な行動的参加を行えるように、ミサ式次第を改訂しなくてはなりません。

そのため、ミサの儀式は、その「本当のあり方」を保ちながら、より簡単で無駄のないようにされなくてはなりません。時代の経過によって重複したもの、途中から加えられた、あまり意味のないものは除かなくてははいけません。これに反して、時代の変遷によって削られたものであっても適切、あるいは必要と考えられるものであれば、その当時の聖なる教父様方の本来の基準に従って復元されなくてははいけません。

(つづく)